

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機設計及び工事計画）【285】
2. 日時：令和4年10月3日 13時30分～18時00分
3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

服部(靖)安全審査専門職、植木技術参与、山浦技術参与  
技術基盤グループ 地震・津波研究部門  
堀野技術参与※

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 担当部長（原子力管理） 他13名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力部 設備設計グループ 担当 他1名※

電源開発株式会社

原子力事業本部 原子力技術部 設備技術室 課長代理 他1名※

## 5. 要旨

(1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号機の設計及び工事の計画認可申請書のうち、耐震性に関する説明書（弁の動的機能維持評価について、原子炉建物の地震応答計算書に関する補足説明資料、サプレッションチェンバの耐震性についての計算書等）について、令和4年5月16日、7月19日、9月8日、9月21日及び9月27日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【弁の動的機能維持評価について】

- 弁の動的機能維持詳細評価で用いる弁の合成加速度の組合せ係数法による算出式におけるx、y及びz方向の応答加速度について、3方向の加速度入力に対する評価方法と合成加速度算出時の組合せ係数法で考慮している最大値発生時の非同時性の考え方について説明すること。

【原子炉建物の地震応答について】

- 3方向の応答から刺激係数を考慮して応答変位の最大値を求める式について、二乗和平方根で評価できる理由を説明すること。
- スペクトルモーダル解析を実施している設備に対する応答スペクトル

の違いによる影響評価法について、応答スペクトルと刺激係数により算出する条件比率が、実際のスペクトルモーダル解析結果に比べ必ず安全側の値となることを説明すること。

(3) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

## 6. その他

提出資料：

なし